

令和5年度
第1回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

議 事 内 容
(概要)

令和5年度第1回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日 時：令和5年8月28日（月） 13：30～15：30

2. 場 所：松江市上下水道局 大会議室

3. 出席者

（1）出席委員 松本委員長、片寄副委員長、浅田委員、大田委員、
利弘委員、中村委員、藤原委員

（2）欠席委員

（3）事務局 小塚上下水道局長、吉岡部長、中倉技監、杉谷次長、鍛冶次長、
石津総務課長、田淵検査員、前島営業課長、吉岡専門官、
古藤施設設備課長、中西経営課長、中岡経営係長、牧野財務係長

4. 議事

- （1）松江市上下水道事業の概要について
- （2）第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理について
- （3）水道料金原価計算について

◇委員会の内容（概要）

○松本委員長

ありがとうございます。

それでは（1）（2）（3）それぞれ説明いただきましたが、それに基づきまして、どこからでも良いです。ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○浅田委員

ご説明ありがとうございました。

1つですけれども、耐震化がこれから、例えば現在、主だったところが6割ぐらいだとか、これから色々していくと思うのですけれども、統廃合のタイミングと、途中、耐震化の優先順位みたいなどころなどもお話いただけたのですけれども、統廃合のタイミングで、そのエリアとかその管などもやっていると思うのですけれども、毎年毎年の計画がそれにリンクしているのかなという、より効率的にやっていくので。

そのときに、少しいくつか思ったのが、(2) の 14 ページの表で、6 年度以降が、例えば単年度がぐっと減ってきて、そのときに施設の計画をやっているページがあったときに、5 年度までにそういった色々な重点的にやる施設が、避難所だとか、そういったところがまだ終わっていないのですけれども、それ以降、単年度一定でぐっと少なくなって、一定で大丈夫なのではないかというものです。

そういった統廃合だとか、防災の拠点となる施設に対して優先的に耐震化を進めているとあったのですけれども、それが途中から単年度でぐっと減って、その後は一定みたいな形になっているのですけれども、それで内容的には十分足りて、あと、統廃合の計画などもあるのですけれども、十分リンクして間に合う形なのではないかという、そういった質問です。お願いします。

○事務局

大体今の管路の更新率を 100 年で全管路が順番にできるようにと、今の管路というのは大体 100 年ぐらいもつ。法定耐用年数はまた違うのですけれども、そういったところがありますので、まずは全体のバランスを見ながらということなのでも、まず第 1 番に急ぐのが防災拠点への給水機能を確保する。震災等の災害があった場合にみなさんが集う、あるいは病院とか、そういったところに水が滞りなく供給できるということが目標ですけれども、その後は全体として管路の更新率 1.0 を大体ベースとしながらやっていくと。遠い先の計画まではまだはっきりと立てていてはございませんが、そういった足取りをずっと、同じ事業費、同じベースでずっと走っていくことが世帯間負担の公平性ですとか、あるいは事業者の確保・育成ですとか、そういったことにもつながると思っておりますので、そのようにしていきたいと思っております。

それから、施設の統廃合と管路の更新というのは直接的にはリンクしておりませんので、浄水場とか、水をつくる場所とか、ポンプ場とか、そういったものを統廃合したりとかはしますが、管路は管路としてそのまま使えるという状況でございますので、それは直接的にはリンクしているわけではないということでございます。

○浅田委員

ありがとうございます。22 ページの表だったのですけれども、令和 7 年度以降の

色々な避難場所だとか、忌部の小学校だとか、そういったところなども間に合う形で計画はできるというところですね。すみません、ありがとうございました。

○松本委員長

防災的な視点と経営的な計画との整合性ということでしたが、それは別々に計画立ててやっているということで。ありがとうございます。

それでは、それ以外のところも含めて自由に疑問や質問でも結構だと思いますので、よろしくお願いします。

大田委員、お願いします。

○大田委員

少し中座をしてしまい、申し訳ありませんでした。ラジオの生放送のほうで、こちら会議のことをお話させてもらって、「上下水道はこういう取り組みをしている」とお話ししたら、すごくスタジオも沸いたので、地下のことなのでみなさん知らない、当然だと思っていることに楽しいことがたくさん、興味深いことがあるのというのを短い時間ですが伝えられたのかなと思います。

その話に関連するようなことなのですけれども、(2)の資料の27ページ、市民に伝わる広報活動の部分で、市民が知りたい情報の提供というように記載があるのですが、これは現在のところでアンケートですとか、何かご意見が寄せられているところで、具体的な「こういう情報が知りたい」という話は寄せられているのか教えていただきたいです。

○事務局

市民にアンケートというところで、まず1つが、平成30年にアンケート調査を開始した目的というものが、市民の満足度というものを測るということを目的にしております。

水道事業・下水道事業に対して満足しているか、概ね満足、不満であるとか、それを平均値を目指そうというような形でスタートをして、そちらに重きを置いてしております。

その中でも、どういったことが知りたいですかというのは、経営状況であるとか、

耐震化のこととか、そういったアンケート調査の結果というのはあるのですが、ここで料金がどうかというようなこと、それからこの 28、29 にありますけれども、今後力を入れて取り組むべきことはどういうことか、料金の値上げの抑制、施設管理の強化。知りたい情報といたしましては、上下水道料金に関する情報や断水等に関する災害時のことというような様々なご意見をいただいておりますが、まだまだなかなかそれで具体的にというところまでのアンケート調査というところには至っていないと思いますので、大体項目的には、水道料金はどうなるのか、災害時にはどのようにすればよろしいですかというようなことが見受けられるのですが、具体的にピンポイントにどういうことをお知りになりたいかというところ、もう少しそういったところを具体的に分かるような聞き取りができれば良いのかなと正直思っているところでございます。

あと、民営化にはしてもらいたくないとか、逆に民営化すべきだとか、そういった色々なご意見があるのですが、少しそういったところをもっと集約をして反映できるようにしたいなとは考えております。

○事務局

あと、私が来てから職員に申し上げたのは、結局ここにも書いてある通り、上下水道局からのお知らせみたいなものがベースになっています。実際には、寒波がきて水道が止まったらどうするかとか、実は水道が凍結してしまうと給湯器もダメになりますよみたいなことがあるわけです。そういったものをタイムリーに素早く出していくということが非常に重要ではないかと。そうすると、やはり意見を聞かなければいけない。

ただ、アンケート調査をとったとしても、自由回答を書いていただく人はほぼ皆無に等しいので、それをどうしようかということはやっているのですが、そこを推進委員会なども通じて色々のご意見をいただいて、それから、やっとホームページがスマホに対応するようになったが今年からということで、非常にこの双方向の情報のやり取りというのが、うちとしては一番遅れているところだということに思っています。

したがって、災害時はもちろんなのですが、先ほど言ったように、素朴な疑問に対して、市民のみなさんが素朴にこれはどうなのだろうかと思っていることにつ

いて、こちらとしてのお答えを用意して、それを一番分かりやすく表示をしていくということが一番重要なのではないか。民営化がどうのこうのというのは、実際に市民のみなさんにはあまり関係ないというか、水道料金がどうなるのかの前提として広域化はどうですか、民営化はどうですかという話があるので、その辺りよりもまずは身近な情報。

それから、こういった機会を通じて、なぜ広域化や民営化や経営効率化が必要なのかというようなこと、それから巨大な資産を抱えて、それをどうやっていくのかということは常に発信をしながら、その中でいずれ料金改定というのはやっていかなければいけないと思っていますので、そういったことの基礎知識をまず市民のみなさんに持っていて、それで良いか悪いかということを大いに議論していただきたいというような思いがあって、今回原価計算も、なかなか難しい話なのですが、皆様方にお示しをして、こういったことをするきっかけになればということと、自由にご意見をいただいて、そういった情報をできるだけ発信していきたいという思いでございます。

○大田委員

ありがとうございます。スマホからもサイトを見てみようと思います。

○松本委員長

ありがとうございます。大田委員、非常に重要な意見だと思います。水道事業の費用面だとか、市民の興味・関心を高めることがとても必要で、今、水道事業のみならず節電・節水、色々なエネルギーという意味で、水道のことをここは話し合う会ですが、そこから節電や脱炭素、マンホールの中には600機のポンプがあって、非常に経営上ひっ迫する部分も想定されますので、市民への教育というところが、今言われたようにホームページ等が開設されたと聞きますので、そこを通じて積極的な情報発信というか、水道事業を中心に、この事業が脱炭素だとか、節電・節水につながるということが非常に重要ななと思って今聞かせてもらいました。ありがとうございます。

そのほか、よろしくお願いします。

○中村委員

今、松本委員長にもおっしゃったことにも共通するのですけれども、全般的にやはり PR というところに、今回は私たちが特に何か貢献できるのかなと思いました。

同じく PR といっても、先ほどのようなことと、課題としては人材不足であったりとか、防災の観点とか、色々あると思うので、まずその間違いがない PR に今後力を入れていくというところで、いくつかポイントを絞りながら協議したほうが、恐らく限られた回数の中で色々私たちもお役に立てるのかなと思いましたので、今日は時間もあれなので、次回のところまでで、特にこういったところに力を入れたい、例えばもっと水を飲んで、私たちは普段節水をしようとなっているので、水を使って良いのという、今、もっと飲んでほしいということがあったのですけれども、市民の方には上手に節水方法とかも PR しつつ、実は使っている。

例えば、お風呂に水をきちんと溜めて入ろうみたいな、それが美容だったり、良いことをきちんと PR しながら水を使っていただくようなことだったり、あと、人材育成に関してだとか、普段のこういったことにお金が使われている、必要だというところは、今、消防さんが非常に SNS を使って、普段の訓練の様子ですとか、そういったことを上手に発信しておられるので、ぜひ SNS も今後水道局さんもされると良いなと思って、その辺りでお手伝いできたらなとも思っています。

あと、質問がたくさんあって、これはまた後ほどメールか何かで送ろうと思いますが、いくつかすいません。

1 つ、遊休施設というか、これまで持っておられた施設を、何か収益を上げるために活用されているかという点と、特に松江市民は尾原ダムとかに助けてもらっているのですが、松江市民が使うことで、上流の広瀬だとか雲南だとかはお困りになることがないかということと、もう 1 つ、鉛管ですか。私事なのですが、家を新築したのですが、そのあとに鉛管のお知らせがやってきて、新築をするときにどうだったのかなというのがあって、また掘らなければいけないのかなと思ったときに、補助金があってもいくらぐらいかかるのだろうと思ったので、そういった新築ですとか、新しい土地を何かしようと思ったときの情報提供や調査はどうなっているのかなというところを聞かせていただくと嬉しいです。

○松本委員長

ありがとうございます。確かに今回は、たくさんの方が盛り込まれていて、事前

に配られた資料ですが、今の説明でようやく頭に入ってきたような部分もあると思います。今のご意見について、今ここですぐ返せるものがあつたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

先ほど遊休資産の活用についてご質問いただきましてありがとうございます。遊休資産のうち活用できるものについては、うちのほうでよく使いますが、もう既に平地になっているところ、ご要望があれば、例えば旧庁舎、便利が良いところがありますので、一部は駐車場としてお貸しをしております。

あと、田和山の周辺で、あの辺りはなかなか民間の駐車場がございませんので、浄水場の空き土地などについては、こちらでもまた駐車場のほうでお貸しをしております。

その他、先ほど色々な施設を合併のときに統合したというお話が出ておりましたけれども、条件が山の中で悪いところで、なかなか活用の目途が立っていないところもございます。そちらについては、今年のところで遊休資産の台帳を整理しようということで検討を進めておりまして、特に町中にある、まだ上屋が建っているような施設、こちらのほうが上屋を撤去して活用できるかどうかということについて検討を進めたいというように考えております。

以上でございます。

○松本委員長

ありがとうございます。

○事務局

それでは、尾原ダムの上流域の方のということで、基本的にダムを造られて、立ち退きとか、そういう方と、通常に暮らしているときにこちらのほうに水を取ってという、上流域のほうの人の水が取れなくなるのではないかなというようなことだと思います。

基本は、尾原などでも関連する国土交通省ほか、水を取水しているところで協議会をつくっております、ある程度の水がなくなったら、当然下は制限してもらったら困るのですけれども、その辺りで量の調整をしているので、そこはそういう会議で、

水をどれくらい取るかということはやっております。

それから、ダムはどちらにしてもかなりの方々が立ち退きをされまして、周辺整備云々ということで、下流域の自治体がお金を出しあって、上流域の森林の整備等を毎年やっております。松江市も他の市町村もですけれどもお金を出してやっていることと、来月、尾原ダム周辺の草刈りをボランティアでやるのですけれども、そういうところに上下水道局も参加して整備を行うというようなことをやっております。

○事務局

鉛給水管の対応ということでご質問いただいておりますが、鉛給水管、松江市内の家で、調査した中では約 4,500 から 5,000 戸程度の各家庭に残っているのではないかと、今のところ把握しております。

その中で、新しく建てられた家に関して、図面で私どものほうに申請がありますので、そういうご家庭に関しては、自分の敷地内に対しては鉛給水管というのはほぼ残っていないというように考えていただいて、安心いただいて結構だと思います。

ただし、家の中ではない道路部分にも若干、古い町の部分になろうかと思いますが、鉛の給水管が残っております。その部分に関しては、個人で工事をして取るというのはなかなか難しいものですから、そういう鉛の給水管が多いような管に関しては、先ほどご説明した耐震化や老朽管路の敷設替えのところで、前倒しのほうをさせていただいて、道路工事と伴って取っていくような形で努力をさせていただいているところです。

その中でも、まだ残っていて不安だという各ご家庭に関しては、橋北・橋南と 1 年おきに分けてなのですが、ご案内を送らせていただいているのですが、その中で、特に不安であるというようなご家庭に関しては、私どものほうで水質検査をさせていただいて、水質基準の 0.01 mg/L を超えるような水質が出るようなご家庭に関しては、積極的に道路のも含めて私どものほうで、特に宅外の鉛給水管を替えるような事業もさせていただいているところです。

○松本委員長

ありがとうございます。大部分お答えいただいたかなと思うのですが、環境基準的にいくと鉛が 0.01ppm、今言われた 1g ということを超えるというのはなかなかない

のかと感覚的には思っていますが、あった場合には行政的にも何とかしなくてはというようなご意見だったと思います。ありがとうございます。

説明の時間が少し長引いたので、その分、委員のみなさん少しだけ長引いても良いですか。ご発言いただいていない委員のみなさん、お願いします。

○藤原委員

21 ページ以降のところの安心・安全を守る地域防災力の向上というところで、一昨年と今年と非常に大雨による災害が増えてきている中で、地域防災力の向上というのはかなり関心を集めているように感じます。

実際に、一昨年の大雨災害では、自分の住んでいる地域でも避難所開設があったのですが、なかなか急なことでしたので、まさかそういうことが起こるとは思っておらず、地域防災本部の設置であるとか、避難所の開設がなかなか上手くいかなかったということがありました。

そういう中で、実際に防災拠点施設への給水機能の確保であるとか、給水ステーションの整備ということで計画を立てて、もし万が一のことがあった場合でも、どのような災害が起こった場合でも、水道に対しては非常に安心・安全だなというように感じました。

24 ページ、25 ページのところに書いてあります防災訓練についてなのですが、3 年度・4 年度のところでは、小学校において児童や地元住民約 50 名をはじめというような形で、かなり多くの方が参加されながら防災訓練をしておられることが分かります。

その中で、防災訓練はかなり大事なのではないかと個人的に感じておりまして、なかなか普段実際に災害が起こったときに水がどうなるだろうということを考えて生活している人はなかなか少ないと思いますので、実際に防災訓練の中で、参加される市民の方々に対しての働きかけというのは、具体的にどのようなことをされているのかお聞かせいただければと思います。

○事務局

先ほどの防災訓練の中で、実際に参加いただいた市民の方にどういう説明・PR、あるいは準備をとということでお話をさせていただいているかということだと思います。

れども、まず、私どもは震災を想定した防災計画というものを策定しておりますけれども、やはり市民の皆様方には、震災というのはいつどこで発生するかというのは台風等々違って、なかなか普段いつ来るか分からないということなものですから、やはり日ごろの備えというものをお願いしたいということをお伝えしております。

どういう備えかといいますと、結局 1 人 1 日当たり、生きていくためには最低 3L の飲料水が必要になるということでございます。私どもの防災計画の中では、山の上に配水池といって、6,000 m³ぐらい溜まるタンクを市内何箇所も設置しておりますけれども、大きな地震が来て、いざ配水管といわれます皆様方の家に給水するまでのところのパイプが破断して漏水がたくさん発生しますと、そうすると配水池といいますタンクの水があつという間に空になってしまうものですから、そういう大量の水が流れ出したときには、そこで緊急遮断弁といって、溜まった水を確保するためにバルブを自動的に閉めていくということで、災害が起こったあと、皆様方が避難された避難所に水をお届けする、まず水を確保するというのをやってくるわけでございますけれども、ただ、そうやって水を確保して、実際に給水車等で水を配って歩くというまでに、やはりある程度の時間がかかりますので、市民の皆様には、先ほど言いました 1 人 1 日 3L の水を 3 日分程度は、ある程度自分の備えとしてペットボトル等をご準備していただけたらというお話をさせていただいております。

それから、私ども、どうしても上下水道という立場でいきますと、災害が起こったときに特に困りますのが、断水によって家庭でトイレが使えなくなるという問題もございまして、これについては、特にお風呂の残り湯などを、例えば一晩、朝まで取っておいていただいて、もしそういった地震等で断水が発生しました。ただ、幸いにしえて家は特に大きな被害がなくて、トイレ等を使いたいのだけれども流すことができないというときには、そういうお風呂の残り湯を貯めていただいた分などを活用していただいて、そういったトイレで使っていただくとか、そういったことなどを市民の皆様方に PR というか、日ごろの備えという形でのご協力をお願いという形でさせていただいているところでございます。

○藤原委員

ありがとうございます。

○松本委員長

ありがとうございます。

はい、お願いします。

○片寄委員

各委員のみなさまのご意見、本当に同じようなことを思っておりますが、1 つ、やはりアンケート結果でも、一番多いのは料金に関する情報を知りたいとか、力を入れていただくのに料金の値上げを抑制してほしいというのが断トツ 1 位。料金について高いかどうかということに関しては、高いというのが 3 位ですよね。何となく安ければ安いほうが良いという結果なのかなと思っています。

皆様おっしゃったように、やはりそこには PR 不足というのがもちろんありますし、私も前年度 1 回だけ出て、やっと少しずつ、今回も丁寧に説明いただいて、やっと水の流れといいますか、水道事業のことが少しだけ分かったぐらいなことです。一般の消費者の方々には本当に分からないことばかりで、疑問も出てこないという状態ではないかなと思っています。

ですから、PR やアンケートについても、もう少し色々な方法で精度を上げていただいて、具体的な内容についてのアンケートを出されると良いかなというように思いました。

それから、皆様のご意見になかった中で、水道料金の原価計算のところで、基本料金が、一般住宅は 13 mm と 20 mm のところで、それ以外の例えば工場とか事業の給水管について 2 倍にされたというようになっているのですけれども、これは 27 年にそのように改定されたということで、全国的にはどういう流れなのか分からないですけれども、一般家庭と事業用について、これから事業用をもっと 3 倍・4 倍と上げる考えがあるのか、他府県などではどうなのかとか、水量ランクについても通増度を少なくされたということですが、最低限、一般家庭が使うところまでは、とってお得な料金にさせていただいて、それ以上のところ、レジャー施設だったり、事業で利益を出しているようなところをガンと上げるとか、そういったことは他府県だったり、ほかの事業行政などでされているのかいないのかというような疑問が少し湧いてまいりました。

○事務局

ありがとうございました。1 つ目のアンケートでございますが、やはりもう少しこちらのほうから問いかけをするというか、非常に大雑把なアンケート、それは満足度を測るためだというように先ほど説明いたしましたけれども、少し具体的に説明をして、上下水道のことも分かっていたく努力も含めてやっていく必要があるなというように感じましたので、検討材料として承らせていただきます。

それから、料金の原価ということですが、全国的に言えば、この通増度というのは低くなってきております。水道は元々公衆衛生というところから始まっていますので、まずは安全な水を市民にお届けするというところで、口径や施設を大きくするのは、やはり大量に消費するところが全部負担をしていくという形で、通増度というのはもっと昔は5倍ぐらいあった。それを徐々に減らしていっております。

ただ、昨今の状況を見たときに、経済活動を優先するのか、あるいは民生を優先するのか、それはそれぞれの立場によってお考えが違ってくるので、これはまた料金審議会場でどういった基本料金、あるいは従量料金がどれぐらいのバランスでいくべきなのかというのは、そのときにお諮りをした上でやっていく必要があるだろうというように思っておりますが、全国的にいうともっと通増度が低いところもあって、それは工場とか大量消費をする都会地などはそういった条件が非常に大きい。ただ、うちは給水収益のうち約7割が一般家庭用でございますので、そちらのほうのウェイトのほうはかなり大きいわけです。そうすると、通増度をあまり下げすぎると、要は使用の中心が一般家庭ということなので、その辺りのところは少し配慮したいなと思いますが、ただ、企業誘致とか、企業立地とか、あるいは松江を元気にするという意味では、やはり企業がここで継続していくだけの1つのベシックとしては考えることもありますので、色々な想定をしながら、それをお示ししながら料金審議会等で最終的には決定をしていくということになろうかと思っております。

○松本委員長

ありがとうございます。

はい、お願いします。

○利弘委員

今の話につながるかもしれないのですけれども、今の収支見通しを見て驚いたというか、これからどうなるのだろうと少し不安になったのですけれども、今まで企業債を結構な勢いで下げてこられていて、それが止まるということですよ。ペースはかなり遅くなるということだと思えるのですけれども、そうなってくると当然料金の話になると思うのですけれども、今回は料金の話は今回の目的の中にはないので、ただ、多分従来通りの料金を継続した場合のシミュレーションだと思うので、そうなる結構このままでは厳しいのだろうなど。

ただ、今までも厳しい中で、松江市の水道管というのは、今の耐震化率も全国平均よりも高いということとかある中で、これだけ企業債を減らされてきたということでもありますので、非常に経営努力をされてきたのだろうなということは同時によく分かったのですけれども、ただ、今後相当厳しくなるだろうなど。

しかし、これは多分松江市だけの話ではないと思います。私も子どものころから、例えば引っ越して転校してきた人が、「松江市の水道代は高い」というようなことを本当によく聞いていたので、今は昔ほどではないかもしれませんが、ただ、そういう傾向はあるかもしれない。もし、松江市だけの事情であれば、今後ひょっとしたらもっとそうなるかもしれないと。

ただ、周りを見渡すと、例えば耐震化率1つとっても、松江よりも遅れている部分も多いわけです。そうすると、多分全国的に今の水道管などを更新することが必要になってくるわけで、全国的に多分水道代が改定されてくるという動きが出てくるのではないかと思います。その中で松江市はどうするかということが必要になってくると思うのですけれども、1つ思ったのは、松江市の受水率というのは、8割ぐらいは県から買っているという話がありましたよね。松江市も簡易水道と通常の合併するときに色々あって、10年経ってほぼ今は合併されている状況だと思うのですけれども、もう一個上の段の合併というか、広域化というのは検討されていないのかなと。要は県から水を仕入れているような形になっているわけですよ。そこの仕入れ先と、今それを購入している先が一緒になってというようなこともオプションとしては今後あるのではないかなということが気になりました。

あと、色々今プロモーションの話がありましたけれども、今の料金改定というのは恐らく必要になってくるだろうし、全国等の対比などもあるだろうし、その辺りも早めにされたほうが良いのではないかなというようには、ざっくばらんに思いました。

○事務局

料金改定ですけれども、わざわざ今日これを出したのは、近い将来だぞということを、1つは市民のみなさんにアナウンスする1つの材料ということで考えております。

それから、年度収支をずっと考えていただくと分かるのですが、以前は内部留保資金が 60 億円を超える。要は手元に貯金があった。それを耐震化を進めるために、できるだけ借金をせずにずっとやってきて、今、20 億円を少し超えるぐらい、千数百億円の資産を抱えている水道事業としての貯金としては大変少ない額です。2,300 万円の家を建てて、手元資金が 20 万円しかないというような状況です。簡単に言うと。

したがって、難しいところなのですが、収支を見ると黒字が出ているのですが、将来の再投資をするために必要な額には足りないというのが現状でございます。これをいかにして市民のみなさんに分かりやすくご説明をする、特に利弘委員は会計の専門家でございますので、それを分かりやすく説明をしていかなければいけないなということがございます。

本当ですと、実はシミュレーションした結果、令和 5 年度から 9 年度までの収支を見たときに、大体平均 14% ぐらい上げなければ将来の資産が維持できないというのは、現実、概算では出ております。ただ、そのところで内部留保資金はどこまでもつのか、あるいは将来の負担と現役の負担をどういうバランスでとっていくのかというのが非常に難しいところがございますので、これを 1 年ぐらいかけて、それから、今、海外情勢も含めて非常に乱高下をしているというか、為替も含めてですけれども、ウクライナ情勢がいつまで続くのかとか、原油かどうなるのか、為替がどうなるのかによって非常に振りが大きい時代です。

加えて、先ほど言われたように、県営事業の振りが今年度中に出るということもございますので、ある程度将来的に数字が確定した時点で、料金をもう一度再計算して、世代間負担をできるだけ公平にするために、3 年から 5 年のスパンで大体料金改定をすべきということでございますので、そういったルールも 1 つの考え方として市民にお示しをしながら料金改定というのは今後進めなければいけないなというように思っています。

それから、広域化ということでございますが、これは都道府県単位で広域化をし

しょうというのが水道法が改正をされたということで、国はもうそれでやりなさいと言っているわけでございます。我々としても、一番重要なのは、要は隠岐とか、あるいは中山間地、非常に採算性が悪いところに対して、要は1つの事業とするのであれば全部統一料金になるわけですよね。そうすると、実際に小さな町村というのは、料金だけではなくて、税金を投入して料金を維持して水道を供給しているというような状況もあって、一番メリットが出る方法を我々は考えていかなければいけない。それは利弘委員が言われるように、県営事業と市町村が経営している事業を一体化して効率化を図るということで、実は広域化の検討の中でも、我々は県事業との垂直統合をシミュレーションとしてやってくれということで、シミュレーションを県においてやりかけているところです。本当はうちがやるのではなくて、県が旗降ってやらないといけないことだと思いますが。

それと併せて、水道だけではなくて上下水道両方を一体化してきちんとやっていただかないと、市町村はみんな上下水道1つの組織でやっていますが、県の下水道は土木部やっていますし、水道は今、健康福祉部の薬事衛生課が所管をしてやっていたりするので、そういうことも一本化をしてくださいということも言っていますので、我々としては将来に向かってダウンサイズしていきますので、できるだけ料金体系を維持しながら着実に事業を進めていくためには、そういった選択肢もすべて考慮に入れた上で事業を考えていきたいというように考えております。

○松本委員長

委員のみなさん全員お声を出していただきました。

まとめるわけでもないのですが、次の委員会でも、また議論が進められます。今回の委員のみなさんのご意見を参考に、フォーカシングするのも1つの手かなと思います。

それから、やはり価格の面と、どうしてこういう価格設定になったのかということに対しては、私たちが使っている水が一体どこから来て、どういう経路で来たのか、こういうパスがすべて集まって料金になっているという、やはり市民への情報提供・供給、ただ単に価格だけを見るのではなくて、松江市がおかれている地形学的・地質学的特性があってこういうことになっていて、今回の資料はとても良くできていて、島根県の中では半分ぐらい、全国の中核地の中では下のほうだけど、これにはわけが

ある。これを見れば、「この料金なのだ」ということが分かってきます。

経営収支、水需要だけでの収支ではマイナスなので、営業収支だけでは赤になっているので、国の補助金というのが全国どこでもあって、これで賄っているけれども、国はそれをいつまで続けるのか分からないという危機感があって、これも正直に、言葉を選ばなくてはいけないと思いますが、伝えていって、市民の理解を得るとというのが今回の私たちの使命かなと。それとともに、今回浅田先生もおられるし、防災や減災のことについても併せて考えてくということだと思います。

まだ言いたいことがある委員のみなさんおられると思いますが、時間が来ておりますので、今回の委員会はこれにて閉じたいと思います。

なお、この委員会が終了したあとでも、先ほどメールという話もありましたが、追加質問等があると思います。その場合は事務局のほうまで連絡をいただけますようによろしくお願いします。

次回の開催は、事務局で日程調整をさせていただくことになりますよね。日程が決まりましたら、また事務局のほうから委員の皆様にご案内をお願いいたします。

それでは、少し時間を超過しましたが、以上をもちまして、すべての審議について終了したいと思います。みなさん、本当に今日はありがとうございました。事務局のほうにお返しします。

○事務局

松本委員長様、大変スムーズな進行ありがとうございました。

次回の推進委員会につきましては、2月から3月を目途に、年度内に開催を予定しておりますが、今回、委員の皆様がお代わりになられたということもございますので、今現在、忌部浄水場のほうで耐震化工事をやっております。それから、向島ポンプ場等の施設見学会をさせていただきたいと考えておりますので、改めて日程調整をさせていただきたいと思っております。

以上になりますが、何か全体を通してご質問等はございませんでしょうか。

……………質問なし……………

それでは、以上で本日の日程をすべて終了したいと思います。今日はご協力いただきまして、ありがとうございました。